

企画名： #福井京都 TSUNAGU プロジェクト

団体名： 地域組織研究所

1. 報告要旨

2021年度、当初の計画では前期(～8月)後期(10月～3月)に分けて、原子力発電所(原発)に対し、福井県嶺南地域ならびに京都府北部地域における反原発、脱原発、その他(ヨウ素剤配布など)活動をする市民(活動者)や行政機関、これまで活動に参加していなかった市民(非活動者)へのヒアリング調査を実施する予定であったが、結果として5月から3月までの11か月間にわたるヒアリング調査となった。

ヒアリング調査の対象としては、「活動者」「市町のまちづくり担当課」「NPO 法人」「原発従事者」「UI ターン者」へ、その方法としては、インタビュー形式またはワークショップ形式とし、延べ14回、27名に対して実施をした。その調査からは、多くの人達が原発のある地域の10年後、20年後に対して「危機感を感じている」「交流や対話の場を期待している」と共に、「自分たちは主体的になれない」といった言葉もあった。その様な結果を踏まえて、2/28 ワークショップ形式による福井県嶺南地域の活動者と、最終的な意見交換を実施した。

その意見交換では、若者世代を「働く世代」や「新規移住者」と定義した場合、やはり世間体や新たなつながりを作る中で、その立ち位置の難しさを再確認した。そこで、今回の企画助成における後期に向けての提案については、別紙の#福井京都 TSUNAGU プロジェクト次の展開についての通り、20代、30代の「働く世代」に向けてではなく、高校生、大学生といった学生を主な対象として、「(仮称)未来の場づくりファシリテーター」養成講座を実施。全6回の養成講座と共に、参加者が主体となる「(仮称)未来 TSUNAGU 会議」として、養成講座の報告会兼家族、同僚、友人といった「働く世代」と共に、それぞれの地域の未来を考える場を提供することを企画提案とした。

2. 成果物

1. ヒアリング調査票①～⑧ (2021.5～7)
2. ヒアリング調査票(ワークシート)⑨～⑩ (2021.7～8)
3. ワークショップ4回の実施および報告書 (2021.12～2022.3)